

関東地方の「紅葉の見ごろ予想」

今年の関東地方における紅葉の見ごろの時期は、全般的にやや遅いかまたは遅くなる見込みです。

【解説】

紅葉は気温が低いと早まり、気温が高いと遅くなります。

関東地方における9月の月平均気温*は、平年をかなり上回っています。

このため、今年の関東地方における紅葉の見ごろの時期は、例年よりやや遅いかまたは遅くなる**見込みです。なお、今後の天候の推移によっては、見ごろの時期が前後する可能性があります。

また、今回の発表では、(社)日本観光協会が保有している過去5年間の紅葉最盛期のデータを基に、予想式の係数及び例年の見ごろ時期を再計算し、予想に用いました。

資料1：各地域の紅葉の見ごろ

資料2：紅葉の見ごろ予想の等期日線図

*9月の月平均気温

本発表においては、9月26日までの日平均気温と9月27日～30日の日平均気温の平年値を用い9月の月平均気温を作成しました。

**紅葉の見ごろが、例年の見ごろと比べて、10日以上早い(遅い)ことを「早い(遅い)」、5日以上早い(遅い)ことを「やや早い(やや遅い)」としています。

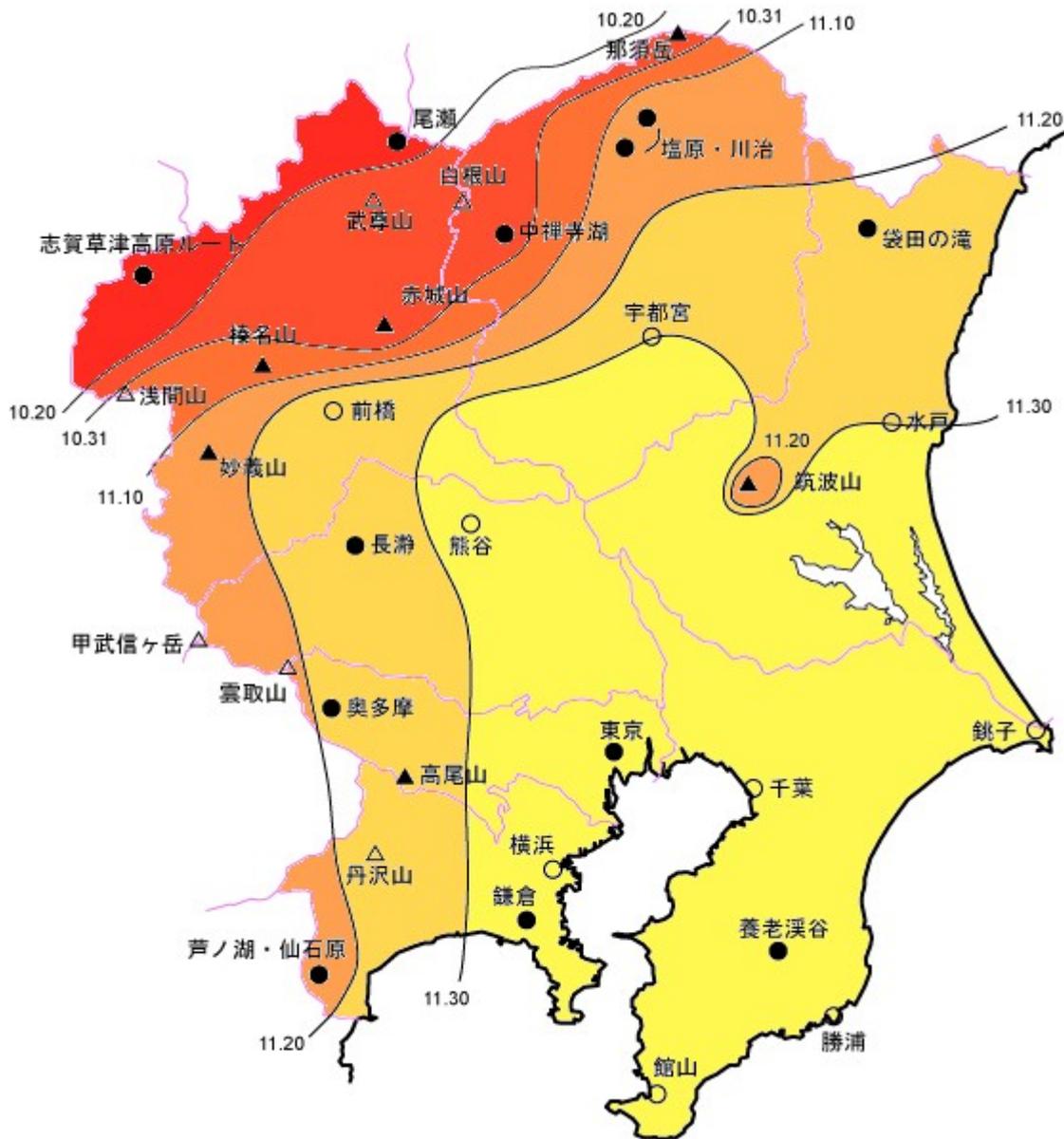
問い合わせ先：気象庁観測部計画課 情報管理室 応用気象情報係
電話：03-3212-8341 (内線 4228)

2007年各地域の紅葉の見ごろ

	9月			10月			11月			12月		上段:本年の紅葉の見ごろ 下段:例年の紅葉の見ごろ
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬			
尾瀬												10月中旬～下旬前半 10月上旬～中旬前半
那須岳												10月中旬後半～下旬 10月上旬後半～中旬
中禅寺湖												10月下旬～11月上旬前半 10月中旬後半～下旬
赤城山												10月下旬～11月上旬前半 10月中旬～下旬前半
志賀草津高原ルート												10月中旬～下旬前半 10月上旬～中旬前半
塩原・川治												11月上旬後半～中旬 10月下旬後半～11月上旬
榛名山												10月下旬後半～11月上旬 10月中旬後半～下旬
妙義山												11月中旬～下旬前半 11月上旬～中旬前半
袋田の滝												11月中旬後半～下旬 11月上旬後半～中旬
筑波山												11月中旬～下旬前半 11月上旬～中旬前半
奥多摩												11月中旬後半～下旬 11月中旬～下旬前半
芦ノ湖・仙石原												11月上旬後半～中旬 11月上旬～中旬前半
長瀨												11月中旬後半～下旬 11月中旬～下旬前半
高尾山												11月下旬～12月上旬前半 11月中旬～下旬前半
養老溪谷												11月下旬後半～12月上旬 11月中旬後半～下旬
鎌倉(瑞泉寺など)												11月下旬後半～12月上旬 11月下旬～12月上旬前半
東京(明治神宮外苑)												12月上旬～中旬前半 11月下旬後半～12月上旬

注:紅葉の見ごろは、(社)日本観光協会調べによる過去5年間の紅葉最盛期のデータと気温の関係について調査し、その結果(予測式)と今年9月の月平均気温(9月26日までの日平均気温観測値及び9月27～30日の日平均気温平年値より決定)により算出しています。例年の見ごろ時期は、上記で求められた関係に9月の月平均気温の平年値を代入して算出された期日に前後7日を併せた合計15日間を「例年の紅葉の見ごろ」としています。

2007 年紅葉の見ごろ予想の等期日線図



[注] ●、▲は予想地点、○は気象官署、△は参考地点を示す。

「紅葉の見ごろ予想」で用いる予測式について

1. 関東地方での「紅葉の見ごろ」の予測について

「紅葉の見ごろ予想」で用いる予測式は、紅葉の見ごろと 9 月の気温との間に高い相関があることから、関東地域の紅葉の名所での現地調査と近隣の気象観測所の 9 月の平均気温をもとにしたものです。具体的な関係式は次のとおりです。

$$10月1日からの通算日数(y) = 係数1 \times 9月の平均気温(T) + 係数2$$

9 月の気温について、紅葉の名所で気温を直接、観測していない場合は、もっとも近い気象観測地点の気温を高度補正して、現地の気温を推定します。

予測式では紅葉の最盛期となる期日が算出されますが、「紅葉の見ごろ予想」の発表では予測式の誤差を見込んで、前後 7 日を併せた合計 15 日間を「紅葉の見ごろ」時期として発表しています。

2. 予測式の見直し

これまでの予測式は、昭和 30 年代の紅葉の名所での現地調査に基づいて作成したものです。今般、(社)日本観光協会の協力により、最近 5 年間の各地の紅葉の見ごろに関する資料を現地調査のデータとして予測式を見直して、これまでの予測式、

$$y = 3.99 \times T - 43.61$$

を、新しい予測式、

$$y = 4.62 \times T - 47.69$$

としました。

新旧の予測式を比較すると、新しい予測式では、従来の予測式に比べ5日～10日程度見ごろ時期が遅く予想されることとなります。

また、例年の見ごろ時期についても今回あわせて見直すこととし、新しい予測式に9月の月平均気温の平年値を代入して算出された期日に前後 7 日を併せた合計 15 日間を「例年の紅葉の見ごろ」としました。